

中間驛は依然として難航

○：その一つは例のつな橋問題で昨年暮の最終町議会で加藤甚一議員の動議で議会全員で現地を検分しようとした暮の町議会で、鉄道側からの塩幌駅設置の条件のなかにとりやまなければならぬ協力を得なければならぬ。西一線側は「施設が強く示されていることが明らかとなり、これができないならば、それはできないというのに西一線側に対して町理事者からの直接のはたらきかけもきたようだ。」

新廳舎初の町議會

議決を経

足寄町役場新庁舎ができてから初めての町議会は十二月二十二日にひらかれ入院中の義島史助氏を除いて全員が出席、高橋議長が会期を一日とするとの宣告があつて、恒例の職員期末手当支出を主とする年末審議会だつたが、中間期や下期審議について、の論議や施設部長などが合議の上位置は堀尾に決定と打ち出された。さらに十二月五日には御鉄から位置決定にもなる種々の条件を請書として持参されたのに、西一線の方々が鉄道から聞かれることに喰ひ違ひがあるので十三日

法の執行で二号颱風に被害が甚切な災害を被つた、昨年暮の間に、委員会（委）が不適当な工事を強行したと報告したが、川上町長二、三問うが、

義島美晴氏　議案に入る前に今まで執行したこと、報告があればよい。

諸戸助役　十三日の報告をした。局長は不在で運輸部長に会つてきたが五日の請書は確認され、鉄道としては当初は西一線だけ、青貝一箇行

親類も甚だしく、異例のことになつてゐたが、十一月十一日、現地測り、道もいともブル会から延て作業に開かれ

はしなれた。開闢の愛冠一上利別開の乗隙についで経過を申上たい。十月十五日に多田、湯浅両氏と共に銚路鉄道局へ参つたことは十六日の議会で報告したが、銚路新設の必要があるのを二十日に建設委員会に調査して頂いた。塩幌側からと西一線側からの二点で鉄道は踏切りをさけて歩道をつけてはよいといつており、十一月十四日に多田氏と鉄道局へ参つたところ局長、運輸部長、

請願の箇所と決定して本社へ手續きをすませたといつており、請書の内容は

一、駅設置に要する工事費金額約五十五万円を負担します。設備内容ホーム五十米、電灯一式

二、附近の主要道路から新駅ホームに通ずる主要道路(巾員三米以上)及び塩幌橋に至る最短路行道の新設又は、改修をします。ただし新駅歩行道路の橋に至る最短路行道路の新設については関係土地

所有者及び受益住民との協議により善処します。

二、鐵道用地外に屬する道路及び水路の付替えを施行します。

四、新駅の名称については貴任（鐵道管理局長）に一任します。

五、第一項の工事費はこの通知に接した日から一年以内に予納します。

となつてゐる。
大原茂氏 地元からの要望
で着工したのに中止した
のはなぜか、私は西一線
を主張したが議決には従
う。伊路の關係は請書に
出されぬのが実施されね
ば開始されないのか、二
月頃の鐵道からの公書は
そのまゝ朗讀して頂けれ
ばよかつた。

開戸助役 十一月二十八日
に鉄道から測量にみえ、
すすめて差支えないとい
うので着手した。町自体
でなく部落落だが、ブルト
ーザをペラボナイの村道
工事にふりむけるため一
時中断した。請書の道路
は鉄道の意志がハツクリ
すれば現地の人も協力し
て頂けると思うが、見通
しは申し兼ねる。鉄道か
らの公書は四月に議会に
報告したが、表現に落度
があつたかもしれないが
照会であり最後決定とは
思われなかつた。

原茂氏　しばらくの時期で
ありブル使用の陳情があ
つて着工したと思うが、
難しい問題の中で間歇は復
雑さがあるのを慎重に課
して貰いたいと役場の課
長に申しとおいた。道路
ができなければ業務が開
始されないとなれば重大
なこと、明確にして着

上すべきだった。公書を
 一度朗読して頂きたい
 戸助役 鉄道の意志がハ
 ヲッキリしたので着工した
 最短距離の道路は現地の
 カ々と協議したい。
 由松松氏 私からも報告
 した。鉄道では位置の変
 更はしないが 条件を入
 れてほしい。最短距離の
 路は是非実行してほし
 といっており、助役が
 内は困難だというと、
 月や二月は待つから実
 行してほしいという。間
 歩道だ。(以下三面)

プリンセスも目出度
日の本の礎へ
御成

輝しい新年を迎えまして
旧年中は格別の御引立誠
本年も相変らぬ御愛顧を
昭和三十四年一月元旦

株式
会社
前

くきまり
かたし
婚を待つ
御同慶に存じます。
有難う御座います。
願ひ申上げます。

山 吳 服 店

足寄駅前 T 二二

衣料品と靴のデパ
株式
会社
さ
か
足寄
— 優秀な技術・即脚
現像
焼付
引伸し
上野
足寄
カメラと材料
特別サ

ト

きばら

道銀前 T 二一八

仕上げ――

カメラ堂

町東区 上野 復与

ビス 市価の二割引

皆様の娯楽の殿堂

——暖房設備完備——

足寄劇場

岡崎光三

T 一三七